



グループ通信

発行／ふれディアグループ本部 編集部
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4
朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。 一段と寒くなってくる時期ですが、風邪などひかずに過ごしてはいかがでしょうか。さて、冬によく食べられる果物のひとつと言えりんごですね。 体を温める効果のあるりんごは、風邪予防にも強い味方です。 今月は、このりんごをいれるりんご箱と茶箱、2つの“箱”の話題です。 実は今、本来の箱の用途とは違う使い方をしたり、リメイクしたりすることが注目を集めています。 りんご箱の発祥の地は青森県。 りんご栽培が始まった明治時代に、出荷用の箱として青森県南部地方の天然赤松材で作られました。 頑丈な作りの木箱は20～30年もの間、青森から県外へ運ばれ、再び青森へと返送されて…と繰り返し使われてきたのですが、古くなったものをテーブルやイスに作り直した家具が人気だそうです。 箱には農家さんの屋号、りんごの品種、市場で書かれたペンの文字などがそのまま残っていて、その味わいを生かした家具にはあたたかい物語が感じられます。 また60×30cmのサイズも使いやすく、並べたり積み上げたりして食器棚や本棚にするなど、インテリアとしての使い道が広がっています。 赤松には湿度の調節機能があるので野菜の保存箱としても適しているそうです。 一方、茶箱の始まりはりんご箱よりもずっと古く、江戸時代に静岡県で茶葉の保存・保管用、産地から地方への発送用として作られたと言われています。 30kg前後の茶葉を入れて運ぶため、とても丈夫です。 秋田県湯沢市の木製家具の製作所では、幼児用の椅子を梱包する箱として再利用されています。 梱包用の段ボールは役目が終われば廃棄されてしまうため、それに代わるものはないかとお茶屋さんの蔵に眠っていた大量の茶箱の利用を思いついたそうです。 レトロな雰囲気を残しつつ、表面に和紙を貼るなどきれいにリメイクされた茶箱は、商品が届いた後もおもちゃ入れや机として利用できます。 何に使おうかなと考えるのも楽しいですね。 茶箱に帯や着物などの布を貼ったり、色を塗ったり、アンティーク金具をつけるなどして、オリジナル感を楽しむ人もいます。 丈夫なだけにキャンプ道具の保管や運搬など、アウトドアでも活躍しています。 様々な表情を見せてくれる“箱”の魅力が、再発見されているようですね。

ふれディア通信編集部

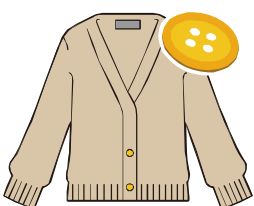
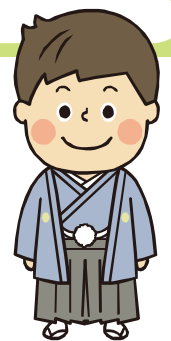
幸福の前ふれ？ 不幸の子兆？ ラッキージンクス&アンラッキージンクス

今月のジンクス > 衣服にまつわるジンクス



私たちの生活に必要な不可欠な**衣服**にも、さまざまなジンクスがあることをご存じでしょうか？ 例えば、**ついうっかり服の前後ろや裏表を間違えて着てしまう**ことってありますよね。 そのまま外出して人に指摘されると恥ずかしい思いをしますが、実はこれは**とってもラッキーなサイン**になるそうです。

次に**ズボン**ですが、その昔、袴は左足からはく習慣があったため、**ズボンも左足からはくと縁起が良い**と言われています。 これからはちょっと意識してみたいですね。 また、服



についている**ボタン**が**取れた時**は、アンラッキーの兆しかと思われがちですが、実は自然とボタンが取れた時は**恋愛運が上昇しているサイン**で、特に**第一ボタン**の場合は近い将来、**運命の人と出会える**なんて言い伝えもあります。

ほかにも、夜に特別なことをすると**お葬式を連想させる**という理由から、**新しい服をおろす時**は、夜よりも**朝**がいいそうです。 気になるジンクスはありましたか？

日本や世界には、さまざまなジンクス・迷信・言い伝えがあります。 ただし、ジンクスはあくまでもジンクス！ アンラッキーなジンクスが起きても科学的な根拠はありませんのでご安心ください。